

Y14a 大学院生出張授業プロジェクト (BAP) の活動報告

鎌田耕平、石川遼子、宮武広直、安藤康伸、白川慶介(東京大学)、ほかBAPメンバー同

大学院生出張授業プロジェクト (Back to Alma mater Project、以下BAP) は、主に東京大学の大学院生によって構成される有志の学生団体である。本団体は、大学の知を社会に還元する活動の一環として、大学院生が母校において研究活動の紹介をする出張授業を展開している。出張授業を行なう講師は、東京大学の全研究科の大学院生から広く募り、全国の高校で天文学やその他ロボット工学等の多岐に渡る分野の出張授業を行なっている。

BAP は、高校とのコンタクトから授業実施までの流れを体系化した文書や、過去の授業資料などをアーカイブとして活用できる web ページなどの環境を講師に提供するとともに、ミーティング等を通じて直接講師をサポートする事で、「大学院生(講師)にとって低負荷」かつ「高校生にとって高品質」な出張授業を提供する。さらに出張授業前にはBAPメンバーを高校生に見立てた「練習会」と呼ばれる模擬授業を行い授業内容・構成の吟味を行なう。各授業終了後には反省会を行い、以後の授業のために情報を蓄積する。

BAP では平成 21 年度の発足以来 2 年弱で全国 43 校の高校で、のべ 2000 人以上の高校生に対して出張授業を行ってきた。平成 22 年度からは出張授業を全国の大学院生に広めるべく、BAP が培ってきたノウハウを出張授業を行いたいと考える他大学の大学院生に提供しており、平成 22 年 11 月にはノウハウを提供した東北大学の学生による母校への出張授業も行なわれている。本講演では、出張授業システムの詳細について説明するとともに、出張授業を全国の大学院生に広めるために行なっている活動についても紹介する。